## UnitBase テクニカルガイド







Chapter 7:決裁機能の利用

- ◆ UnitBaseの決裁機能
  - 決裁処理の流れの概要
  - ・ 決裁に関わるユーザーと必要な権限
  - 決裁処理の進み方
- ♦ 決裁機能を設定する
  - 役職の設定
  - 決裁ラインの設定
  - 決裁データベースの作成
  - 決裁ルートの設定
  - ・ 決裁データベースの運用開始
- ◆ 決裁データベースを公開する
  - ・ 決裁データベースの公開
  - ・ 決裁データベース特有のアクセス権設定
- ◆ 決裁を申請する
- ◆ 申請された決裁を処理する

株式会社ジャストシステム

決裁機能



## UnitBaseの決裁機能

#### □ 決裁処理の流れの概要

UnitBaseを使用して、承認が必要な内容の決裁をします。

UnitBaseでは、レコード単位で決裁内容を記入し、そのレコードを、決裁を依頼されたユー ザーが承認・差し戻し・却下などの判断を行います。 標準の設定では、決裁が完了したレコードは、あとで編集することはできません。決裁中は、

決裁または差し戻しを依頼されたユーザーだけが、レコードを編集することができます。決裁 中や決裁完了後にレコードを編集できるように設定することもできます。

ユーザーが不在となる場合には、あらかじめ代理人を指定しておき、処理を代行してもらうこ ともできます。

複数のユーザーのうち誰か1人が承認すれば次の決裁者に決裁を進めたいという場合には、決裁 者としてグループを指定することができます。 また、複数のユーザー全員が承認して初めて次 の決裁者に決裁を進めたいという場合は、複数人決裁を設定します。

#### □ 決裁に関わるユーザーと必要な権限

決裁では、次の役割を持ったユーザーとアクセス権が必要です。 決裁用のデータベースを公開するときは、それぞれのユーザーに応じてアクセス権を設定しま す。

ユーザー	役割	必要な権限
データベース 作成者	決裁申請用のデータベースを検討・作成 し、決裁データベース化します。 ・配置するフィールドの設定・レイアウ トの決定 ・アクセス権の付与	決裁データベースにできるのは、対象の データベースの所有者・フォルダーの所 有者・管理者です。レコードへのアクセ ス権は、一般ユーザーと同じです。
申請者	決裁の対象となるレコードを作成し、決 裁を依頼します。	対象データベースのレコードへの閲覧/ 作成/編集権が必要です。
決裁者	レコードの内容について承認・却下・差 し戻しの判断を行います。 決裁者にグループを指定した場合は、グ ループに所属するユーザーのいずれかが レコードの内容について承認・却下・差 し戻しの判断を行います。	対象データベースのレコードへの閲覧権 が必要です。 決裁者にグループを指定した場合は、グ ループ自体に対象データベースのレコー ドへの閲覧権が必要です。 ※決裁者によるレコード編集を許可して いる場合、編集権が必要です。この場 合は、決裁者に指定したグループ自体 に編集権は必要ありません。
管理者	申請者や決裁者の代わりに、決裁の取り 消しなどを行うことができます。	管理者はすべての決裁データベースのレ コードを参照できます。

決裁機能



### UnitBaseの決裁機能

#### □ 決裁処理の進み方

- 申請者が設定した決裁者が、指定された順で内容の承認判断(承認・却下・差し戻し)を行います。
  - 決裁ルート上の前の決裁者が決裁を行わないと、次の決裁者は決裁の処理はできません。
- 指定された決裁者のすべてが「承認」と判断した場合に、決裁処理が完了し、決裁状態が「承認」となります。
- 決裁者の1人が「却下」と判断した場合は、その時点でレコードの決裁処理は完了し、決裁状態は「却下」となります。決裁ルート上の、却下と判断した決裁者以降には、決裁処理は進みません。
- 決裁者の1人が「差し戻し」と判断して、申請者または自分より先に決裁を処理した決裁者へ
   決裁を差し戻すこともできます。この場合、差し戻し先から再び決裁処理が進むと、差し戻しと判断した以降の決裁者にも決裁申請が回ります。
- 申請者または承認済みの決裁者が「引き戻し」と判断して、自身に決裁を引き戻すこともで きます。この場合も「差し戻し」と同様に、引き戻し先から再び決裁処理が進むと、引き戻 しと判断した以降の決裁者にも決裁申請が回ります。



決裁機能



### UnitBaseの決裁機能

- 決裁処理の進み方(続き)
  - ・ 複数のユーザーのうち誰か1人が承認すれば次の決裁者に決裁を進めたいという場合は、決裁 者としてグループを指定します。
     <グループによる決裁>
  - 複数のユーザー全員が承認して初めて次の決裁者に決裁を進めたいという場合は、複数人決 裁を設定します。<複数人決裁>
  - 前もって代理人を指定しておくことで、申請や決裁の処理を代行してもらうこともできます。
     この場合、申請・決裁処理のそれぞれに対して、代理人を指定します。
     代理申請・代理決 裁>





決裁機能



#### □ 役職の設定

決裁ルートとして、固定のグループ/ユーザーのほか、役職を設定することがで きます。

役職で決裁ルートを指定することにより、決裁を申請するユーザーに応じて、決 裁者を自動的に置き換えて設定できます。

- 例)決裁データベースの決裁ルート設定:課長 → 部長 → 事業部長
  - A事業部 営業部 田中さんが決裁を申請した場合: 佐々木課長 → 山田部長 → 加藤事業部長
  - B事業部 マーケティング部 鈴木さんが決裁を申請した場合: 杉山課長 → 中野部長 → 長谷川事業部長

役職の登録はUnitBaseの管理者権限を持つユーザーで行います。

個人設定 ③ 個人情報・パスワード <u>3</u> 2.   3.   3.   3.   4.   3.   3.   4.   3.   4.   3.   4.   3.   4.   3.   4.	役職 + 役職の追加 - 役職名 ▲ 課長	[+ 役職の追加] ボタンをクリックして 表示されるダイアログで役職名を登録	
UnitBaseの管理 ユーザー	▲ 部長	役職の追加	×
ダループ     シュープ     シュープ     ジェープ     ジェープ     ジェージ     ジェージ     マォルダー 作成 権限		役職名: 事業部長	
個人設定・管理画面の [役職] を開く	(1.24) <sup>Wb</sup>	OK         キャンセル	
<ul> <li>         ・注載ライン管理ポリシー         ・</li> <li>         ・</li> <li></li></ul>	役職致: 2 保存		

決裁機能



□ 決裁ラインの設定(ユーザー自身による設定)

決裁ルートに設定された役職をユーザーに置き換えるには、あらかじめ各役職に 相当するユーザーの情報を「決裁ライン」として登録しておく必要があります。

決裁ラインの設定は、各ユーザー自身で「個人設定・管理」画面から行います。 自分にとって各役職に当てはまるユーザーが誰なのかを設定していきます。 また、管理者ユーザーが各ユーザーの決裁ラインを設定することもできます。 以下の画面は各ユーザー自身で設定する場合です。





### 決裁機能を設定する

□ 決裁ラインの設定(管理者による設定)

管理者ユーザーが各ユーザーの決裁ラインを設定することもできます。



決裁機能を設定する

□ 決裁データベースの作成

決裁に使用する入力項目などを配置したデータベースを作成し、決裁データベー スとして利用できるようにします。



### 決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定

決裁の申請先となるユーザー/グループ/役職と、決裁を回す順番の設定をセット で「決裁ルート」と呼びます。 複数の決裁ルートを用意し、申請内容に応じて適切なものを選択できるようにす ることも可能です。



決裁機能







### 決裁機能を設定する

#### □ 決裁ルートの設定(続き)

決裁ルート名: 1.決裁金額が【20万円未満】	
決裁順: + 決裁者の追加 - + +	☑ 決裁順を申請時に編集できるようにする
決裁者        1     2 課長       2     ジェサンプルグループ 総務部	申請時の決裁者の追加 <ul> <li>○ 自由に追加を許可する         <ul> <li>● 決裁ルートの決裁順より前だけに追加を許可する(末尾固定)</li> <li>○ 追加を許可しない</li> <li>□ 決裁ルートの決裁者の削除を許可する</li> <li>□ 決裁ルートの複数人決裁の設定変更を許可する</li> </ul> </li> </ul>
	☑ 役職が存在しない場合、決裁開始時にその役職を削除できるようにする ☑ 申請者の役職が含まれる場合、その次から決裁を開始する

●決裁順を申請時に編集できるようにする 決裁を申請する際にこの決裁ルートが選択された場合、決裁順の編集を許可 するかしないかを選択します。初期設定はオフ(許可しない)です。 オン(許可する)にした場合には、どこまで決裁者の追加を許可するか、決裁 者の削除も許可するか、を設定できるようになります。

●役職が存在しない場合、決裁開始時にその役職を削除できるようにする 決裁ルートの決裁順に役職が登録されているにもかかわらず、決裁ラインで その役職に対応した決裁者が割り当てられていない場合、決裁開始時にその 役職を削除できるようにするかしないかを選択します。

●申請者の役職が含まれる場合、その次から決裁を開始する 決裁を申請する際に、決裁ルートに申請者の役職が含まれる場合、その役職 の次の決裁者から決裁できるようにするかしないかを選択します。



## 決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定(続き)

自動選択の条件 次の <u></u> ② すべての ▼	条件に当てはまる	
<b>ƒ</b> (w) 費用合計	▼ が 200000円	より小さい 🗸 🛨 -
「休認元」「時のアウション □ レコードコピーを行う		設定
	<b>OK</b> キャンセ	

#### ●自動選択の条件

この決裁ルートを自動で選択する条件を設定します。 AND条件 または OR条件で複数の条件を組み合わせて設定できます。

- 例)備品購入申請の決裁データベースに複数の決裁ルートを作成しておき、 合計金額に応じて自動的に適切な決裁ルートを適用することができます。
  - ■合計20万円未満の場合
     課長 → 総務部
  - ■合計20万円以上・50万円未満の場合
     課長 → 部長 → 総務部
  - ■合計50万円以上の場合
     課長 → 部長 → 事業部長 → 総務部



決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定(続き)

<b>∫∞)費用合計</b>	▼ が	200000円	より小さい 🗸 🕂 🗕
承認完了時のアクション			
🗏 レコードコピーを行う			設定
		OK キャン	

●承認完了時のアクション
 決裁が承認完了したときに、別のデータベースへ自動的にレコードコピーを
 行うかどうかを設定します。
 [レコードコピーを行う]のチェックをONにすると下の設定ダイアログが表示
 されます。

レコードコピー設定				×	
アクションの設定       コピー先データベース:       決裁報告       レイアウト:		参照			レコードのコピー先データ ベースを選択します
フィールドにコピーする値の設定:			/ <del>/ -</del>		
コピー先フィールド 申請日 24月9	フィールド・	コピー元フィールト	/ 値 ▼	A E	コピー元のフィールドを、
	フィールド・				「コピーするか指定します」
<sup>即著名</sup> 内線番号	フィールド ▼ フィールド ▼	◎ 印書名	• •	-	
実行ユーザー ● 操作ユーザー ⑦ 指定ユーザー ⑦ 起点レコードのフィールドから選択	フィールドを	<b>ミ</b> 選択してください	2		自動レコードコピーを実行 するユーザーを指定します
※「指定ユーザー」「起点レコードのフ があります。 エラー通知の設定	マールドから選択」を	を選択するにはコピー先デー	-タベースの所有者であ	る必要	
<ul> <li>レコード特定用フィールド: 「」</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>指定したフィールドの値がメッセー・</li> <li>コードのエラーか判定します。</li> </ul>	番号 ジと一緒に出力されま	▼ す。値が重複しないフィー	ルドを指定することでと	อบ	レコードコピーでエラーが ・・・・・発生した際に、レコードを 特定する情報としてエラー ダイアログに値を表示する
	ОК	キャンセル			フィールドを指定します

決裁機能



□ 決裁データベースの運用開始

すべての設定が終わったら、[決裁の設定] ダイアログの [OK] ボタンをクリック して設定を反映させます。

以下のダイアログが表示されますので、[はい] をクリックすると決裁データベー スとして運用できるようになります。



決裁機能



### 決裁データベースを公開する

#### □ 決裁データベースの公開

作成したデータベースを公開し、ユーザーが決裁データベースを利用できる状態 にします。手順は通常のデータベース公開と同じです。

申請者・決裁者のユーザーに必要なアクセス権は、次のとおりです。

対象者	必要なアクセス権		
申請者	レコード閲覧/作成/編集権		
決裁者	レコード閲覧権 ※決裁者の編集を許可する場合、編集権が必要です。		

#### 決裁データベース特有のアクセス権設定

決裁データベースのアクセス権の詳細設定 には、通常のデータベースにはない公開設 定項目があります。

- ●自分が決裁開始通知の送信先に含まれるレコードについては決裁開始後に閲覧可能にする
   ⇒決裁レコードの決裁開始通知の送信先に指定されているユーザーは、決裁開始後にそのレコードを閲覧できるようにします。
- ●自分が決裁承認完了通知の送信先に含まれるレ コードについては承認完了後に閲覧可能にする
   ⇒決裁レコードの決裁承認完了通知の送信先に 指定されているユーザーは、決裁承認完了後 にそのレコードを閲覧できるようにします。
- ●自分が申請者や決裁者でない決裁中レコードの 閲覧を可能にする
  - ⇒自分が申請者や代理申請者、決裁者や代理決 裁者でないレコードでも、決裁のレコードを 閲覧できるようにします。 業務で1件の決裁が必要なときに、関与する 複数のメンバーが同時に申請することを防止 するために利用します。

レコードのアクセス権 詳細設定	V⊐-ド0
許可するアクセス権にチェックを入れてください。 レコードのアクセス権	許可する レコー1
レコード閲覧	✓ L=
<ul> <li>全レコードの閲覧が可能</li> <li>自分で作成/更新したレコードのみが閲覧可能</li> <li>下の条件に合ったレコードのみが閲覧可能</li> <li>自分が決裁開始通知の送信先に含まれるレコード</li> <li>については決裁開始後に閲覧可能にする</li> <li>自分が決裁承認完了通知の送信先に含まれるレコード</li> <li>については承認完了後に閲覧可能にする</li> <li>自分が申請者や決裁者でない決裁中レコードの閲覧を可能にする</li> </ul>	() () (〕 (〕 (〕 (〕 (〕 (〕 ) (〕 (〕 (〕
✔ レコード新規作成	✓ L=
✓ レコード編集	✓ L=
☑ 既存レコードの変更	✓ <u>E</u>
<ul> <li>全レコードの変更が可能</li> <li>自分で作成/更新したレコードのみが変更可能</li> <li>下の条件に合ったレコードのみが変更可能</li> <li>条件変更</li> </ul>	



### 決裁を申請する

#### □ 決裁を申請する

決裁データベースでの決裁申請は、通常のデータベースでレコードを作成するの と同じ要領で行うことができます。

申請に必要なフィールドを入力後、決裁ルートを選択して「決裁開始」の処理を 行うと、決裁ルートに設定されている次の決裁者に決裁の処理依頼通知が送られ ます。最後の決裁者まで承認が通ると決裁完了となります。



決裁機能



### 申請された決裁を処理する

#### □ 決裁を処理する

決裁が申請されると、決裁者のホーム画面には決裁要請が通知されます。 メール送信設定が有効になっている場合は、決裁要請のメールも送信されます。

決裁者または代理決裁者は、決裁内容を確認し、承認・却下・差し戻しなどを 判断して処理を進めます。



決載する このレコードの決戦を行います。 ○ 承認する ○ × 却下する	判断に応じて [承認] [却下] [差し戻し いずれかを選択して [OK] をクリック	] の フ
	+ <sup>+</sup> *ンセル	

次の決裁者へ決裁処理が回ります。 ●[却下する]を選択した場合

この時点で決裁処理が終了します。

●[差し戻す]を選択した場合
 決裁のやり直しをさせます。
 差し戻し先を指定できるので、申請者に差し戻すほか、自分より前の決裁者にやり直しを依頼できます。